

ACANTHUS NEWS



平成16年 2004.7

月刊アカンサスニュース
金沢大学広報紙 第92号

TOP NEWS

イタリア フィレンツェ市 サンタ・クローチェ教会壁画の修復に本学が協力 教育学部宮下孝晴教授が修復統括

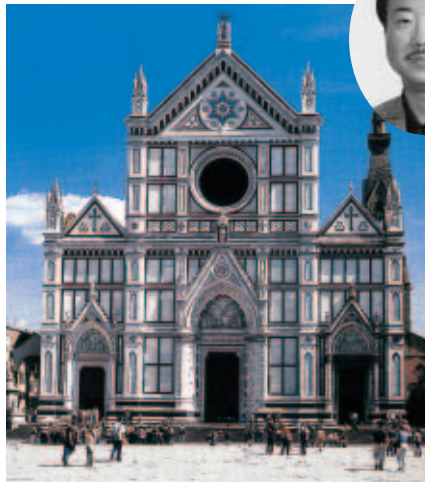
イタリア フィレンツェにあるサンタ・クローチェ教会のフレスコ壁画を、本学とフィレンツェ修復研究所、教会が協力して修復することとなり、6月30日、同教会で林勇二郎学長らが「壁画修復・研究調査に関する協定書」に調印した。

修復するのは、教会の大礼拝堂にある「聖十字架物語」という壁画で、礼拝堂の左右に8枚の連作をなしてい

る。1380年頃に画家アーニョロ・ガッティが「フレスコ画」という画法で描いたもので、教育学部の宮下孝晴教授が修復を統括する。東京都在住の美術愛好家が、私財をイタリア美術修復のために活用させたいと本学に2億円を寄附することになり、実現した。総額2億円のうち、1億5千万円を壁画修復の経費とし、残り5千万円を研究調査、報告書作成、写真展及びシンポジウム開催などの経費に充てる。

宮下教授はフレスコ画法史を専門としているが、修復プロジェクトに関わることにより、普段得ることのできないデータを収集し、制作プロセスを検証する機会を得て、同教授の研究に大きな成果が期待できる。また、本学としては篤志家の資力を、大学が持つ専門知識と信用力を活用して世界的美術遺産の保護と美術史研究の発展に役立て、国際社会に貢献することができる。（5頁に関連記事）

宮下教授



サンタクローチェ教会 フィレンツェの3大教会の1つ。堂内にはミケランジェロ、ガリレオなどが埋葬されている。



協定書にサインする、奥から林学長、サンタクローチェ教会財産管理部カルラ・ボナンニ代表、フィレンツェ修復研究所クリスティーナ・アチディーニ所長＝6月30日、サンタクローチェ教会



ガッティ制作のフレスコ画「聖十字架物語」

巻頭言

学内プロジェクト研究を



理事・副学長
大村 明 雄

分野によって違うかも知れないが、私が知る限り、最近発表される研究論文はほとんどが共著論文で、以前に比べ単著論文は激減した。特に最先端科学と呼ばれる分野にその傾向が強く、著者名の記載だけで1ページを占めるものも少なくない。それは、研究課題の多様化や学際（分野横断型）科学の進展に加え、研究手法の高度化等によるのだろう。私は、基本的に、研究は個人プレーだと考えてきたし、今も、その思いに変わりはない。しかし、何時の頃からか、自身の研究のほとんどが共同研究になっていた。理由は単純、その都度1+1が2以上になる効果を実感したからである。

本学は、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」としての理念・目標を大学憲章や中期目標・中期計画等に明記して、法人化を迎えた。したがって、今後受けることになる種々の評価においては、特に研究評価の結果に衆目

が集まるだろう。当然のことながら、高い評価を得るには、個々の研究を深化させるだけでなく、組織として、本学を特徴付ける学内プロジェクト研究を創出し、それによって得た成果を地域や国内のみならず世界に向け積極的に発信することが求められる。

最初は1+1 \geq 2の共同研究からでも良い、その輪を逐次広げて行くことが、独創的・個性的な学内プロジェクト研究を育むことになる。それは、また、国公私立の区別なく全ての大学に刺激を与え、研究に関する大学評価を社会的な関心事にさえした「21世紀型COEプロジェクト」に挑戦するための戦略にもなる。企業等における研究とは異なり、大学に期待されている基礎研究は、課題発掘から成果を得るまでに相応の時間を必要とする。「基礎研究は一日にしてならず」である。

国立大学としての55年間を通し、本学で営々と培われてきた基礎研究の中には、学内プロジェクト研究のシーズ（seeds）となり得るものは決して少なくないはずである。それらを掘り起こし、芽吹かせ、育種・育成しながら、チーム（組織）プレーと個人プレーの調和がとれた研究体制を擁立することこそ、本学が、真の「教育を重視した研究大学」として国際的にも認知され、社会のニーズ（needs）に応えることにつながるだろう。

目次

イタリア フィレンツェ市 サンタ・クローチェ教会壁画の修復に本学が協力 教育学部宮下孝晴教授が修復統括 ……………1	海外留学フェアに200名を超える来場者 ……………8
巻頭言 学内プロジェクト研究を ……………2	いつでも・どこでも「知的財産キャラバン」……………8
馳政務官が本学を視察 ……………3	特許情報検索のノウハウ学ぶ ……………8
BIO 2004 (in サンフランシスコ) へ出展 ……………3	文部科学大臣感謝状伝達式・御遺骨返還式及び 合同慰霊祭挙行 ……………9
電子カルテ時代の到来を告げるシンポジウム ……………4	附属病院シンポジウム 「連携による確認 - 協力し、確認していること -」 ……9
環境保全センター 角間キャンパスで始動 ……………4	附属中学校 県立音楽堂で合唱コンクール ……………9
大学における知的財産権研究プロジェクトに採択 ……4	本学へのお客さま ……………10
研究者が学術研究をわかりやすく講演 - 日本学術会議中部地区会議 学術講演会 - ……………5	金沢大学国際交流後援会第2回総会開催 ……………10
総合メディア基盤センターと 大学教育開発・支援センターが合同研究会 「社会人のe-ラーニングと大学」 ……………5	会員・賛助員募集中 ……………10
共同研究センター協力会総会 ……………5	市民公開講座「市民のための放射能・放射線の話」 ……11
金子周一教授(医学系研究科)が文部科学大臣賞受賞 本学の最先端研究を紹介 - 第3回産学官連携推進会議 - ……………6	ミニ講演 ばかげた訴訟と市民の司法参加 ……………11
百万石まつりパフォーマンスパレードに参加 ……………7	公開講座 ……………11
附属養護学校百万石踊り流しに初参加 ……………7	法人職員としての基本を学ぶ ……………11
	教育学部の玄関脇にアカンサス咲く ……………12
	竹林整備-角間の里山自然学校- ……………12
	同窓会「金沢工業会」がキャンパス模型を製作!! ……12
	編集後記 ……………12

トピックス

馳政務官が本学を視察

馳 浩 文部科学大臣政務官が6月7日、本学を視察した。総合移転第II期計画事業で整備が進む自然科学研究科の総合研究棟を視察した後、本学の現況等について林学長、各理事らと懇談した。

馳政務官からは、法人化後の運営上の諸問題等について、率直に質問が寄せられた。



有機化学系の実験室を視察
左から、染井正徳教授、馳政務官、林学長



学長室で本学の概要について説明

BIO 2004 (in サンフランシスコ) へ出展



BIO 2004 で熱心にプレゼンテーションを見つめる来訪者たち
=6月7日、金沢大学ブース内

6月7日から3日間、米国サンフランシスコ市で開催された世界最大のバイオコンベンション「BIO 2004」に、本学と金沢大学TLO (KUTLO) は特許などの発表・展示を行った。金沢の豊かな伝統文化とクラシック音楽をしつらえたブースに足を止めた入場者たちは、金沢大学のユニークな研究にも強い関心を示し、3日間でおよそ350人の熱心な来訪者を記録した。今回、展示された研究は、アルツハイマー治療薬のスクリーニング法 (東田 陽博教授)、糖尿病合併症の診断薬 (山本 博教授)、高速原子間力顕微鏡 (安藤敏夫教授)、がん温熱治療装置 (長野 勇教授) の4件で、中でも、海外初公開の高速原子間力顕微鏡で採取した生態のDNAや躍動するタンパク質の動画を、50インチの大画像で映写した際には、バイオ専門家たちから驚嘆の声が上がった。

6月のニュース

電子カルテ時代の到来を告げるシンポジウム

本学と北陸テレコム懇談会の主催で、「ブロードバンド時代の医療情報化」をテーマとしたシンポジウムが6月11日、90名を超える医療や情報通信業界の関係者などが参加して開かれた。

中村信一理事は主催者代表のあいさつの中で、本シンポジウムの意義に触れながら、金沢大学医学部附属病院も来年度から電子カルテを導入する予定となっていることなどを紹介した。

シンポジウムでは、山中温泉医療センターと本学が5月から開始している高速通信回線を利用した遠隔病理検査の事例発表も行われた。



あいさつする中村理事＝金沢市内のホテル

環境保全センター 角間キャンパスで始動



実験系廃液処理装置と火入れする林学長
＝環境保全センター

小立野キャンパスにあった環境保全センターは、里山を背にした角間キャンパスの南西端へこの4月に新営移転した。6月24日には林学長、中村・大村理事はじめ関係者が参列し、センターの実験系廃液処理装置の「火入れ式」が挙行政され、本格稼働が始まった。センターでは、学内で排出される実験系廃液を無害化処理し、下水道に放流しているが、“大学は決して環境汚染物質を排出してはならない”をモットーに、教職員一同決意を新たにしている。

大学における知的財産権研究プロジェクトに採択

特許庁研究事業「平成16年度 大学における知的財産権研究プロジェクト」に、本学の「医薬品産業における知的財産権と競争政策の相互補完関係に関する調査研究」（研究代表者：大友信秀法学部助教授）が採択された。この事業は、特許庁が企業の経営活動の実態を踏まえた実学的見地からの知的財産権研究を対象に支援しているもので、本学の提案が医学系のテーマを扱っており、知的財産権に関する新しい研究成果につながると期待された。

研究期間は、平成17年3月までの10ヶ月間で、研究成果は、3月に東京で開催される「研究成果報告会」で一般公開される。



大友助教授

研究者が学術研究をわかりやすく講演 — 日本学術会議中部地区会議 学術講演会 —

日本学術会議中部地区会議と本学が共催した第1回日本学術会議中部地区会議学術講演会が6月25日、自然科学本館103号室で開かれた。講演会で、自然科学研究科荒井章司教授は「なぜ、海洋底を掘るのか? : 統合国際深海掘削計画 (IODP) の目指すもの」と題し、日本が建造した高性能の海洋調査船「ちきゅう」を駆使しての海洋底調査計画を紹介した。また、教育学部の宮下孝晴教授は、「面壁の美学と科学：イタリアにおける壁画修復の歴史と現状」と題し、フレスコ壁画の特徴とその修復の現状に触れ、自身が手がけることとなったフィレンツェのサンタ・クロチェ教会の壁画修復計画を紹介した。参加した教職員・学生らは、両教授のわかりやすく熱のこもった講演に聴き入った。



フレスコ壁画の特徴について語る宮下教授

総合メディア基盤センターと大学教育開発・支援センターが合同研究会 「社会人のe-ラーニングと大学」



6月24日、総合メディア基盤センターと大学教育開発・支援センターが共催で、第1回合同研究会を開催した。

研究会では、自然科学研究科 木村和子教授が、「社会人のe-ラーニングと大学」と題して、ソニーメディカルチャンネルで公開されている薬学部教員の教育講座の紹介やこの4月からのインターネット大学院の実践例について紹介した。

インターネット大学院について熱く語る木村教授
＝総合メディア基盤センタープレゼンテーション室

共同研究センター協力会総会

6月28日、金沢市内のホテルにおいて、共同研究センター協力会総会が開催された。総会では、平成15年度事業報告及び決算、平成16年度事業計画及び予算について審議承認され、顧問・参与・産学コーディネーターの委嘱について報告があった。

引き続き行われた記念講演では、吉國信雄知的財産本部長が「大学における新たな知的財産へのアプローチ」と題し、大学にとっての知財、知財の役割等、金沢大学における取組みについての講演した。

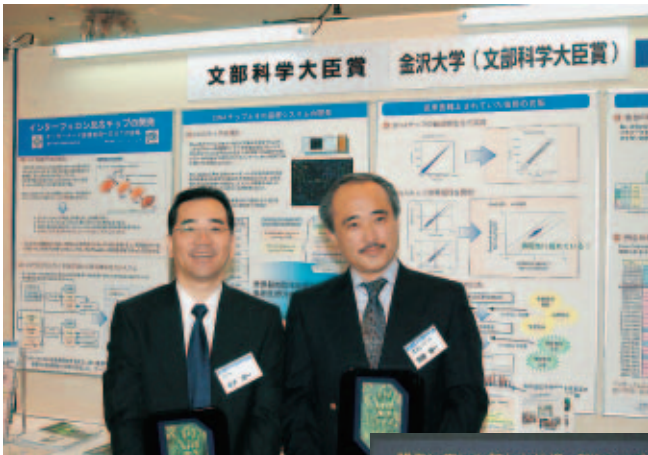
あいさつする
澁谷弘利会長



講演する吉國本部長

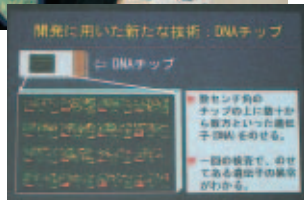
ニュースの杜

金子周一教授（医学系研究科）が文部科学大臣賞受賞 本学の最先端研究を紹介 — 第3回産学官連携推進会議 —



文部科学大臣賞を受賞した
金子教授（左）と共同開発者（右）

開発されたチップ



同会議には、本学から林学長はじめ、朝倉信裕理事、中村理事ら学内関係者、KUTLO関係者が出席した。また、「インターフェロン反応チップ」と自然科学研究科安藤敏夫教授が開発した「高速原子間力顕微鏡」を出展し、本学が誇る最先端の研究を紹介した。

6月19、20日の両日、国立京都国際会館で開かれた第3回産学官連携推進会議において、医学系研究科の金子周一教授が、C型慢性肝炎のインターフェロンの効果を事前に予測する「インターフェロン反応チップ」を開発したことにより、同チップを製品化した会社とともに、産学官連携功労者表彰として文部科学大臣賞を受賞した。

この研究は、本学が持つ肝臓遺伝子情報（世界最大）をもとに開発したものであり、世界初のオーダーメイド医療製品となったことが高く評価された。この方法によって、今後は他の病気にもオーダーメイド医療が導入されていくと期待されている。



小野晋也文部科学副大臣（右）から表彰を受ける金子教授（左）



展示ブースを見学する林学長ら



高速原子間力顕微鏡について説明する安藤教授（左）

百万石まつりパフォーマンスパレードに参加



華麗な演技で注目を集めたチアリーダー部



結団式で健闘を誓う留学生ら

6月12日、第53回金沢百万石まつりのパフォーマンスパレードに、折りあしく小雨模様の中、昨年に引き続き100名を超える学生・教職員が参加した。

6回目の参加となった今年は、チアリーダー部とジャグリング&マジックサークルの学生ほか多数の留学生に加えて、医学部附属病院看護部からも応援に駆けつけ、参加者は横断幕とプラカードを手に、放送研究会の学生の声に合わせて、金沢大学の教育・研究・医療・社会貢献事業や公開講座等について、沿道を埋めた市民に強くアピールした。



一輪車を手練り巧みな演技を披露するジャグリング&マジックサークル部員



石川門下でアピールする看護師

附属養護学校 百万石踊り流しに初参加

教育学部附属養護学校では、陸上部の活動をアピールしようと、高等部陸上部員を中心に教職員・保護者の30名が踊り流しに初参加した。最初、人の多さに緊張していた参加者も時間が経つにつれて雰囲気慣れ、他の団体に負けない元気で、曲のながれにのりながら、全員が約2時間半を楽しく踊りきることができた。



曲に合わせて踊る陸上部員

6月のニュース



協定校ブースで相談する学生と来場者でにぎわう会場

海外留学フェアに
200名を超える来場者

6月1日から4日間、海外留学フェアが大学会館大集会室で開催された。3回目を迎えた今回のフェアは、学生が来場しやすいよう授業のある午前中をさけ、期間も長くした。本学の協定校のうち17校の紹介ブースを始め、留学相談コーナー、TOEFL-CBTトライアルコーナーなどが設けられ、200名を超える来場者でにぎわった。

1日のオープニングセレモニーでは、来学中のU.S.UMAP事務局長であるジェーン・スパルディング氏が英語・日本語をとりまぜたスピーチで会場をわかせた。

海外留学フェアに引き続き、派遣留学説明会が14日には小立野キャンパスで、15日には角間キャンパスで開かれ、派遣留学に興味をもつ学生約50名が参加した。

いつでも・どこでも「知的財産キャラバン」

6月17日理学部で、「知的財産キャラバン」が開催された。「知的財産キャラバン」は、知的財産本部がこの4月から開催している教職員や学生を対象とした「部局や研究室からお呼びが掛ければ、いつでも・どこでも開催するというユニークな特徴を持つ」説明会のことで、国立大学の法人化と発明の機関帰属開始という状況の中で、大学における知的財産や共同研究の考え方、大学の知的財産本部の役割を紹介している。

これまで、がん研究所、工学部、薬学部でも開催し、「発明や出願を考えているときに大学のどこに相談すればよいか」、「共同研究で企業とどう付き合っていくか」といった日常の研究活動で起こる疑問に答えてきた。

「知的財産キャラバン」に興味のある方は、知的財産本部（TEL：264-6086、E-mail:chizai@ad.kanazawa-u.ac.jp）へ連絡を。

吉國知的財産本部長による説明
＝理学部数学科コロキウム室2

特許情報検索のノウハウ学ぶ

6月23日、特許庁の出口昌哉審査官と柳沢智也審査官を講師に迎えて「国際特許分類〔IPC〕を用いた特許検索研修」が行われ、本学教職員、学生及びKUTLO職員の17名が受講した。

同研修は、特許庁が内部の審査官を対象に実施している内容で、審査官が日常行っている精度の高い特許情報検索のノウハウを習得する絶好の機会となった。



特許情報検索の実習＝総合メディア基盤センターユーザー室

文部科学大臣感謝状伝達式・御遺骨返還式及び 合同慰霊祭挙行

6月19日、医学部十全講堂で献体者に対する文部科学大臣感謝状伝達式及び御遺骨返還式がしめやかに挙行され、遺族、教職員や学生ら約500名が出席した。

式では、故人31名に対し全員による黙祷と献花が捧げられた後、遺骨が福田龍二医学部長から遺族に返され、約3年ぶりに家族の胸に抱かれ安らぎの場所に落ち着いた。この後、学生を代表し3年生の飯塚 崇君が「医師として歩む自覚、責任、人間の生と死、その尊厳について考える場を与えていただいた。一層の精進を重ね、立派な医療人となることを誓います」と感謝の言葉を述べた。

午後からは第102回合同慰霊祭が行われ、昨年度亡くなられ病理解剖や献体をされた184名の方々の冥福を祈った。



遺族に遺骨を返還する福田医学部長(中央)＝医学部十全講堂

附属病院シンポジウム 「連携による確認－協力し、確認していること－」



それぞれの職種から発表が行われた＝医学部臨床第一講義室

医学部附属病院では6月24日、医療事故防止に関する研修会の一環として、「連携による確認－協力し、確認していること－」をテーマに院内シンポジウムを開催した。

当日は小泉晶一病院長のあいさつの後、内科医師、外科医師、看護師2名、薬剤師の計5名が、それぞれ持ち時間10分程度で同一テーマについて発表した。その後、参加者との質疑応答を行い、他職種間で協力し合っている確認の工夫について意見交換が行われた。

附属中学校 県立音楽堂で合唱コンクール

教育学部附属中学校は6月29日、石川県立音楽堂を借り切って「平成16年度合唱コンクール」を開催した。地域に開かれた学校行事をめざして、多くの人に参加できるようにと初めて学校を離れての開催となった。

日本でも有数の音楽専用ホールの舞台上に立った生徒たちは、400名以上の保護者や知人を聴衆に、素晴らしい音響効果の中、クラスごとに課題曲と自由曲を披露し、例年以上の盛り上がりとなった。



県立音楽堂での合唱コンクール

本学へのお客さま



6月3日、特別講演「ギリシャ喜劇：すべてはいかに始まったか？」のため来学した、英国ケンブリッジ大学コリン・オースティン教授（右から2人目）、同教授夫人（中央）＝学長室

6月9日、大学間交流協定校である中国ハルビン医科大学の姜洪池当大学書記・学術委員会主任（右から2人目）、孫備（同3人目）一般外科教授、何寧日本語教師（右端）＝大村副学長室



6月16日、薬学部との部局間交流協定校である中国大連軽工業学院の余加祐学長（右から3人目）、楊林機械工程興自動化学院長・現代工程技术研究所長（右端）＝学長室



金沢大学国際交流後援会 第2回総会開催

6月23日、本学の国際交流事業を支援する目的で平成14年3月に設立された、「金沢大学国際交流後援会」の第2回総会が開催された。

総会では、平成15年度事業報告及び決算、平成16年度事業計画及び予算等について協議され、原案どおり承認可決された。

なお、総会関係情報については後援会ホームページで公開している。

(<http://www.ad.kanazawa-u.ac.jp/exchange/kouenkai/>)



第2回総会＝事務局大会議室

会員・賛助員募集中

金沢大学国際交流後援会では、ただいま会員・賛助員の募集を行っています。

平成15年度は会員（学外の方）263名、賛助員（本学教職員）242名、合計505名のご加入をいただき、6,359,462円の資金を得ることができました。この貴重な浄財は平成16年度金沢大学国際交流事業資金として、国際学術交流や留学生交流に係る事業に運用されます。後援会の活動については、年2回発行のニューズレターや後援会ホームページでお届けしております。

年間1,000万円の目標額を達成するため、皆様のより一層のご協力をお願いします。入会方法については、各部局総務担当係にパンフレット（写真）がありますので、お取り寄せください。

問い合わせ先：研究国際部国際課



社会貢献

市民公開講座 「市民のための放射能・放射線の話」

放射性同位元素委員会及び学際科学実験センターは6月19日、金沢市観光会館で「金沢大学市民公開講座－市民のための放射能・放射線の話－」を開催した。痴呆、心疾患、がんの予防や早期診断・早期治療をテーマに講演，続いて「放射線と医療」をテーマにパネル討論が行われた。会場ではビキニ核実験被災50年を記念して原爆マグロの写真などが展示された。



パネル展示を見学する市民ら

ミニ講演 ばかげた訴訟と市民の司法参加

- 月 日：6月26日
- 講 師：東川 浩二 法学部助教授
- 場 所：金沢大学サテライト・プラザ講義室
- テレビ会議システムによる「金沢大学遠隔講座」
受信会場：寺井町立図書館
- 来場者：44名



公開講座



＝6月2日，
大学教育開放センター

- 九谷焼－伝統と創造－
主任講師：
佐々木達夫文学部教授



＝6月26日，
大学教育開放センター

- 暮らしと法
主任講師：
尾島茂樹法務研究科教授

法人職員としての基本を学ぶ

北陸地区の国立大学法人，高専等の新規採用職員（7機関から51名）を対象とする初任者研修が6月22日から3日間，国立能登青年の家を会場に実施された。

開講式では，朝倉事務局長が「この研修をきっかけにいかにお勉強か，その方法を身につけてほしい」と受講者を激励。研修内容は，「国立大学法人の諸問題」として，法人職員としての基本的事項を学ぶとともに，「職場のメンタルヘルス」「ハラスメント防止」等大学職員として必要な知識の修得を中心として進められた。また，矢島久美講師からゲームを交えながら社会人としてのプレゼンテーション技術を学び非常に好評を得た。



ゲームを交えプレゼンテーション技術学んだ

教育学部の玄関脇にアカンサス咲く

教育学部の玄関脇に、南欧原産のアカンサスが咲き始めた。大学の校章にもなっている花で、白と淡紫色の唇形花を穂状につけ、見ごろとなっている。また、道路脇の草むらで小さなアカンサスを見つけた。教育学研究科美術教育専攻の院生らが、手製の看板を作り毎日水遣りをしている。彼らが卒業する年には、花が咲くことを期待したい。



白と淡紫色の花をつけたアカンサスと草むらに小さく息づくアカンサス

竹林整備 —角間の里山自然学校—



竹の伐採に汗を流す里山メイト

角間キャンパス里山ゾーン内の竹林のほとんどは、熱心な里山メイトによって維持されている場所を除いて、人手のゆき届かない、昼なお暗い「竹藪」となっている。定期活動日の6月12日は、十数名の里山メイトらが「角間大橋」近くの竹林を整備した。今年の春に芽を出したタケノコは、すでに10mを超える立派な竹となっていたが、それでもノコギリで数回挽くと簡単に切り倒すことができた。遊歩道わきの竹林は、2時間ほどの作業で明るさを取り戻した。切り倒した竹は乾燥させ竹灰にして、北谷での米作りなどに利用される。

同窓会「金沢工業会」が キャンパス模型を製作!!

工学部秀峯会館1階でこのほど、小立野キャンパスの1/300の精巧な模型が、既に設置の金沢工業高等学校当時の模型の横に展示された。

この模型は、工学部の同窓会である金沢工業会が、角間移転を控え小立野キャンパスを後世に残そうという声を受け業者に製作を依頼していたものである。



秀峯会館1階に展示された工学部キャンパス模型

編 集 後 記

今月号のトップニュースは、サンタクローチェ教会の壁画修復プロジェクトです。本学が世界の文化遺産の修復保存に、目に見える形で貢献できることは大変すばらしいことと思います。このニュースに触れ、また日頃報道機関や市民の方々から、「こんな専門家、あんな専門家いませんか」と様々な照会を受けていて思うことは、本学はやはり総合大学として様々な人材を抱え、地域における頭脳集団であるということです。この多様な専門家たちとこれを支える職員が、それぞれの専門性の中で着実に仕事を進めていくことで、本学が社会から信頼される大学になるものと思います。(R.N)

平成16年 7月16日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
編集 金沢大学広報室

TEL 076-264-5024
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」(愛称“KUPIS”(キューピーズ))
(アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>)でもご覧いただけます。
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。